

南瓜栽培技術情報 No.2

平成28年4月13日

組合員各位

J A 営農支援課
特産南瓜生産組合

南瓜の定植等について

本年は気温が平年よりやや高く推移しておりますが、4月は降雪などの天候不順が見られましたので、圃場では被覆資材を利用するとともに、暗渠・明渠の整備等、十分な排水対策を行うように努めてください。

1. 圃場準備

	肥料名	成分(%)			10a当たり		ハウス1棟(マルチ2本)	
		N	P	K	①	②	③	④
基肥	BB南瓜一発	20	10	10		100kg		40kg
	アグリフラッシュ444	14	14	14	60kg		20kg	
	LP苦土安2号	12	16	14	60kg		20kg	
	マドラグアノ		22		20kg			
	ハイコンユーキ						60kg	
	※石灰類				50~60kg		20kg	
追肥	LP苦土安1号	15	15	15	3kg		0.75kg	
	尿素	46			4~9kg		4~9kg	
	硫安	21						
成分		N			17.9~20.2	20	7.2~9.5	8
		P			22.85	10	6.11	4
		K			16.8	10	5.71	4

※育苗ハウス栽培については、ハウス40~45m/1棟の基準。

※石灰類の施肥は農協営農支援課で土壌分析を行ってからにしてください。

※育苗ハウスにおいて水稲育苗時に弁当肥等を施した場合には、窒素肥料の残量等を考慮する。

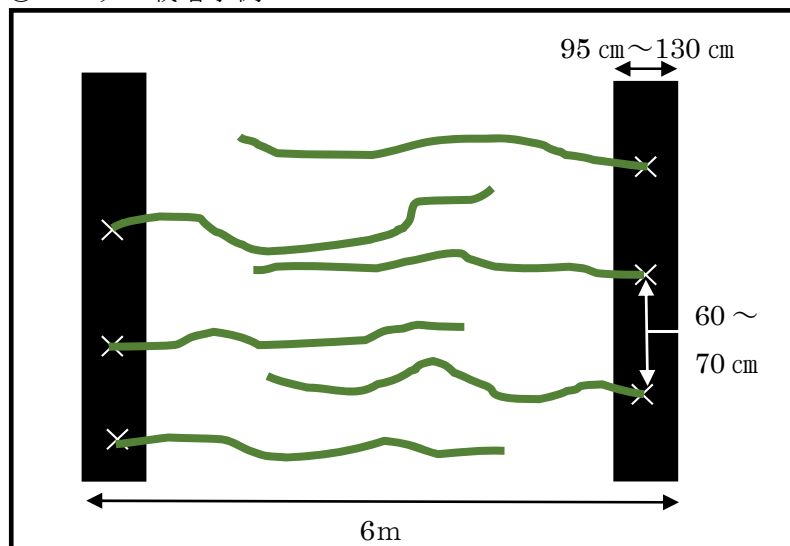
※水稲育苗後のハウスで栽培される方は、対象ハウス内で南瓜での使用登録のない農薬(パダン、プリンス、オリゼメート等)を水稲苗の上から散布した場合、出荷停止となりますので、注意してください。

[裏面に続く]

2. 定植

- 本葉 2.5 葉程度を目安に定植する。(老化苗にならないよう注意)
また、定植前 5 日程度より外気温に慣らしてから定植する。
- 鉢土（根鉢）を壊すと細根が切れ、しおれやすくなるので定植前に鉢に充分灌水する。
- 害虫対策としてアドマイヤー1 粒剤、又はアドマイヤー顆粒水和剤を使用する。アドマイヤー1 粒剤は植穴に 2 g、アドマイヤー顆粒水和剤は希釈倍率 10,000 倍で葉面散布する。アドマイヤー顆粒水和剤を使う場合は展着剤を使用する。
※アドマイヤー1 粒剤、顆粒水和剤はミツバチへの影響期間が残効期間である施用後 30 日となっております。このため、養蜂箱設置の際は影響期間を考慮の上、ご使用下さい。
- 5 月上旬定植の場合は低温や風、霜により生育に影響が出る場合がある。その様な状況の時は被覆資材を利用する。

◎ ハウス栽培事例



3. ウイルス病対策【ズッキーニ黄斑モザイクウイルス (ZYMV) 対策】

スズメウリ：水辺に多く見られるウリ科の 1 年生雑草。種子での越年の他、蔓先が地面に潜り塊茎を形成し越年する。ウイルスは種子伝染しないが、感染した植物体そのまま越年することが問題となっている。

- ① ZYMV の宿主となる「スズメウリ」が生える田植え後頃にラウンドアップマックスロードを散布し根まで枯らす。（主な生育場所：排水路沿い等の水辺、ステップ、畝など）
- ② 水際のステップ等に作物を栽培する場合はその作物にあったアブラムシ防除剤を使用する。それ以外は南瓜登録薬剤を散布し、南瓜栽培圃場への侵入を防ぐ。
- ③ 人為的な伝染を防ぐ目的から、極力ハサミでの整枝、摘果作業は避け、手で行うようにする。
- ④ 被害株については、人為的な伝染につながりやすいことから放置し、アブラムシ防除を徹底する。